

全 仏

~~~~~

No. 382

1992. 10



第35回全日本仏教徒会議九州大会開催  
(九州厚生年金会館での大会式典)



財団法人

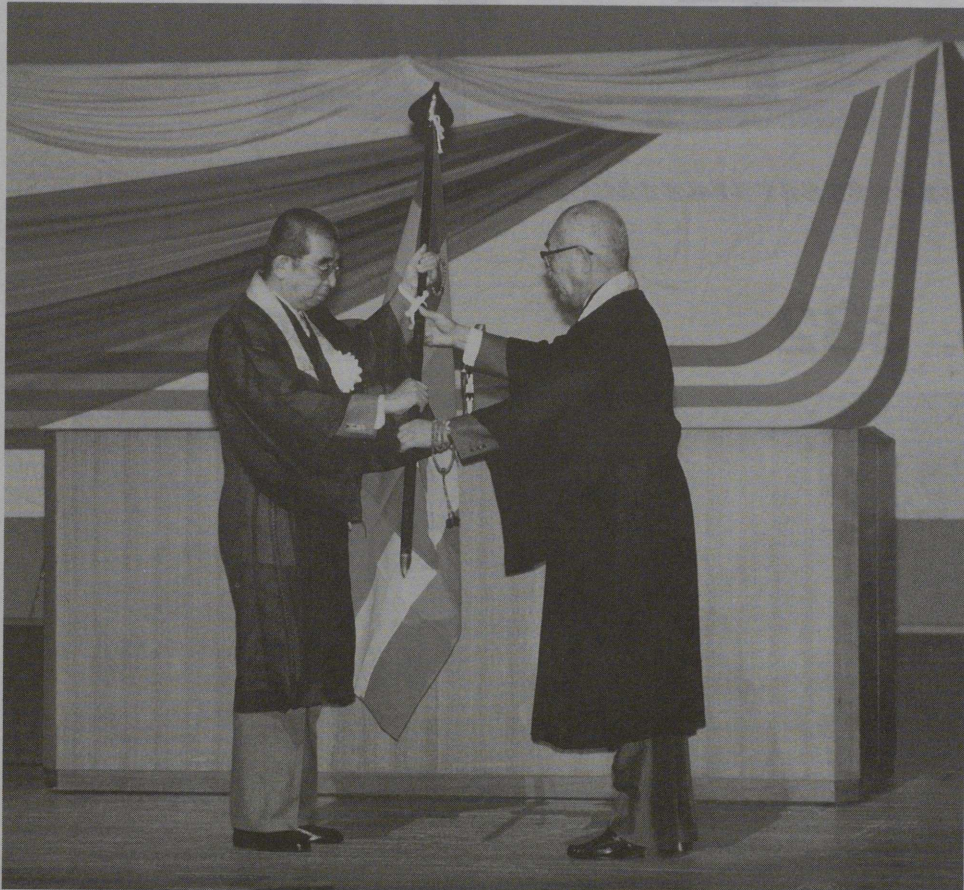
全日本仏教会

JAPAN BUDDHIST FEDERATION

# 第35回全日本仏教徒会議 九州大会開催

## 《テーマ》いのち かがやけ

—人と生まれたよろこび—



大会旗の伝達

第三十五回全日本仏教徒会議九州大会は、去る九月十一日午後一時から、「いのち かがやけ—人と生まれよろこび—」をテーマに、北九州市の九州厚生年金会館で開催された。式典は鎮西敬愛学園合唱団のコーラスをバックにした、光とスモークによる幻想的なオーブニングセレモニーに始まり、前回の開催地である大阪府仏教会から、大会旗の伝達が行われた。

つづいて大会総裁・山田恵諦全仏会長、大会実行委員長・黒田英之福岡県仏教連合会会長、さらに谷伍平福岡県仏教連合会後援会長が挨拶、感謝状贈呈の後、最初の講演「人生は出会い」（村井勉JＲ西日本名誉会長）に入った。

アトラクションの後、鈴木健二熊本県立劇場館長が「感動のある生き方を求めて」と題して講演を行い、午後四時四十分、全ての日程を終了した。会場は、三千人の参加者で立錫の余地もなく、最後まで熱気にあふれていた。

なお、前日の十日午後六時から福岡市のホテル日航福岡で、祝賀記念レセプションが開催された。ここでも、六百人の出席者を前に山田会長が挨拶、九州地区における組織強化の必要性をうったえ、賛同の拍手をあびていた。

## 山田会長のごあいさつ

第三十五回全日仏教徒会議は、九州大会として、三十年ぶりにこの地に開催される運びとなりました。これは、私たち全日本仏教会にとりまして、大変に喜ばしい事です。

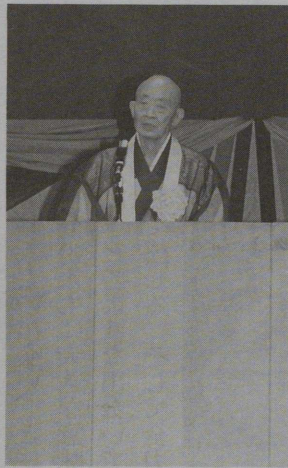
様々な困難を繰り返しながら、それを乗り越え多くの方々が日夜にご心痛をいただきまして、ご準備をいただきました。本日、大会がここに開会されるにつきまして、あらためて皆様方のご尽力、ご苦労に對しまして、深くお礼を申し上げる次第であります。誠にありがとうございます。

ご承知の通り、全日本仏教会は、全国八万の仏教寺院が所属しております各宗派、並びに各都道府県の仏教会のご加盟によりまして、今日この運動が作られておるのであります。我国における唯一つの伝統仏教の運動の連合体であります。

現在、全国三十四の都道府県仏教会が本会に加盟を下さっておりますが、これまでこの九州地区におきまして仏教会が結成されておりましたのは、誠に悲しいことではあります。福岡県と沖縄県だけであり

ました。

しかし今日この大会を迎えまして、この度新たに宮崎県仏教連合会が発足され、全日本仏教会にご加盟いただきました。誠に心強い限りであり、慶賀に堪えない次第であります。この大会を契機として、宮崎県につづいて全九州の各県がご加盟いただきますれば、誠にありがたい事と、熱望して



挨拶する山田会長

止みません。

さて現在、激動の嵐が世界を吹き荒れております事は、私が申し上げるまでもなく、すべて皆様のご承知の通りであります。冷戦の終結によって色々の変化があります。が、イデオロギーではなくして今度は「宗教」と共に「民族」というものを中心に、団結しようという動きが、新しい国際的な一つの様相を示してまいりました。

また一方、国内に目を向ければ、生命倫

理、環境保全、さらに高齢化社会がもたらす生きがいの問題と、解決が迫られている多くの課題が山積みしております。

私はこれらの諸問題は、極めて私共に必要な宗教的な面が非常に深く多くあるため、仏教徒としてこれを見逃す事は出来ないと考えております。歴史が大きな転換期を迎えております今日、仏教も旧套を脱して、新たな面に向かって積極的に社会活動に入らなければならぬと決意しておりますが、みんなの力が今もそこに至っておりません事は、残念でありますけれども、気持は十二分にみなぎってまいりました。

この際に、皆様のご理解によりまして、この大会を契機として九州の各県が今一層の団結をいただきまして、全仏教徒が私共と力を合わせていただく事が出来れば、この大会が大きな意義をもちますものではないかと思う次第であります。

誠に欲深い望みではありますが、時期が到来した事をご承知いただきまして、是非ともこの九州大会に花も実もある成果をもたらして下さいます事を懇願いたします。あ

り、私のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

# 九州での開催は三十年ぶり

## 《大会》

大会は午後一時から式典が挙行された。会場の暗闇の中に浮き出た、合掌を象徴した六色のオブジェと法輪に向かって、鎮西敬愛学園合唱団による仏讃歌が流れるという、厳粛な内に開会式が始まった。

まず大会旗伝達。前回の開催地である大阪府仏教会の森田禅朗会長から大江智朗大会事務局長に大会旗が伝達された。

続いて、山田大会総裁、黒田大会会長、谷後援会長が挨拶、そして来賓祝辞が行われた。

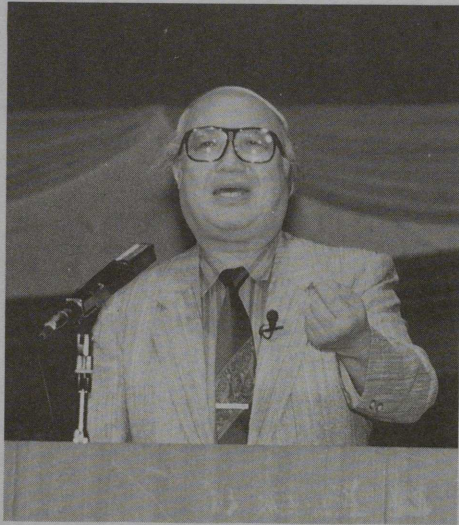


挨拶する黒田会長

その後、黒田大会会長から前福岡県仏教連合会会長の花田英忠師へ、長年にわたる県仏への貢献に対し、感謝状が贈られた。

休憩をはさんで第二部は、村井勉J.R西日本名誉会長の講演で始まった。演題は「人生は出会い・裸で飛び込んで全力投球で生きよ」。

村井氏は学校時代の先生との出会い、社会に出てからの先輩諸氏との出会い、といった様々な出会いが自分の人生に大きな意味をもたらした事にふれ、どのような出会いでも、裸で飛び込んで肌で感じる。そして全力投球



講演する鈴木氏

で頑張る。人生よくよししても始まらない。人生をいつも前向きに、そこに必ず活路が開けると確信している。色々な出会いを通じて、人間という者は成長をつづける。人の心はいうに及ばず、自分の心にも火を灯しながら、日々もろもろの出会いを求めて、一日一日を、更に一日の中でも一瞬一瞬を有意義に送っているかどうかという事を反省しながら、今現在に生きる事が大切であると話を締めくくった。民謡、パイプオルガン演奏のアトラクショ



大会受け付け風景

ンをはさみ、第三部は元NHKアナウンサーの鈴木健二熊本県立劇場館長が、「感動のある生き方を求めて」と題して講演を行った。

鈴木氏は、仏教というものは、日常生活の中にあって、例えば東南アジアの国々や、インド、スリランカといった所の人々の宗教の感情と、日本人の仏教に対する感情とは、大きな開きがあるとし、自分の体の中にも仏教というものが入っているという事を、間接的に感じた事が起こったとして、親戚の寺院住職のすばらしい臨終の有り様をしんみりと話し始められた。

最後に鈴木氏は、常に人間という者は、相手のおかげで暮らしている、そこを釈迦は懸命に説いている。そうした事をこうした大会の話



祝辞を述べる大竹宗務総長

合いを契機として、皆さんが日常生活の中で実践されてすばらしい仏教徒におなりになる事を心から願っております、と話をとじた。

### 《祝賀記念レセプション》

大会祝賀記念レセプションは、大会前日の九月十日午後六時から、福岡市・博多のホテル日航福岡を会場に開催された。

筑紫達矣大会副会長の導師で参加者全員が三帰依文を唱和。続いて、山田大会総裁、黒田大会会長、中村正彦福岡市仏教会会長が挨拶、来賓として李泓波韓国仏教宗団協議会事務総長、林照雄福岡県副知事が、それぞれ祝辞を述べた。



韓国仏教宗団協議会の訪日団

その後、青木晃由義捐金担当部長から、「雲仙・普賢岳災害義捐金」への募金協力のお願いがあった。本大会では、長崎県の雲仙・普賢岳の被害地に対する義捐金の募金活動が積極的に行われ、大会当日も会場に募金箱を設置し、広く参加者から浄財を集めた。義捐金の総額は百五十万円に達し、大会翌日の十二日、黒田会長をはじめとする大会関係者が、現地の島原仏教会を訪れ、直接手渡した。レセプションは続いて、祝宴に入り、石上智康本会理事長、大竹明彦曹洞宗宗務総長、本南正直浄土真宗本願寺派総務の祝辞があり、午後八時盛会の内に終了した。

## 扇子

山田恵諦会長 ご染筆  
(天台座主猊下)

箱入 2,000円

# 修正協定書に調印

## マヤ堂修復事業再開へ



調印する石上理事長（中央）、左側はサキヤ氏、右側は川井委員長

去る八月三十日午後五時（現地時間）、ネパール・カトマンズ市内のホテルにおいて、石上智康理事長とスーリヤ・サキヤLD T（ルンビー開発トラスト）副理事長との間で、「修正マヤ堂修復計画協定書」が調印された。

本会是一九九〇年、マヤ堂修復事業に関してLD Tとの間で協定書を交したが、ネパールの政変等により、事業は中断を余儀なくされていた。

本会は今これまで、修復事業の早期再開を目指してLD Tとの交渉を重ね、その結果、考古学調査、専門家会議の開催等を盛り込んだ「修正マヤ堂修復計画協定書」を取り交すことになり、この日の調印にこぎつけたものである。

調印式には、LD Tの理事長であるゴピンタ・ジョシイー・ネパール王国文部大臣をはじめ、各省

の大臣、同国国会議員、伊藤忠一在ネパール日本大使、各国の在ネパール大使、さらにネパール日本人会の関係者等、約百人が出席した。

本会からは、石上理事長をはじめ、川井匡俊ルンビーニ委員会委員長、小田原利仁同副委員長、川島宏之総務部長、斎藤明聖財務部長、木内隆志国際文化部長、深澤照生同次長の七人が出席、ネパール側関係者との交流を推進した。

なお、調印の後、日本側主催による記念パーティーが開かれた。この席で石上理事長は、「このたび調印された協定は、信仰の場としてのマヤ堂の復元と、学術研究という二つの目的を満たすものであらう」と挨拶、出席者の拍手をあびていた。

マヤ堂修復工事は、来たる十月十五日にルンビーニの現地において起工式を行い、まず第一期作業として、現況のマヤ堂基壇の試掘調査を行う。そして十九世紀に建てられたといわれる、現マヤ堂とその基壇を解体していく。これには、六カ月の工事期間が予定されている。

第一期作業が終了した後、試掘調査から明らかとなった古代マヤ堂の建築デザイン・スタイルに基づいて設計図を作成するために、専門家会議を開催する。



次に第二期作業として、一九九三年から考古学調査を行った場所を埋め戻して基壇を築き、その基壇上に古代のマヤ堂の建築デザイン

とスタイルに基づいた建造物を復元する。これにより、釈尊生誕地ルンビニーの中心であるマヤ堂復興という、画期的な事業が日

本仏教徒の手で実現されたことになる。全日本仏教会では、調印が終ったことから、勧募活動をより積極的に進める予定である。



文部大臣（中央）の私邸を訪れた全仏代表团（下）  
修復を待つマヤ堂（上）

# 理事会開催

## 宮崎県仏の加盟を承認

本会の理事会が、八月二十五日午後二時から、京都グランドホテルで開催された。

石上理事長の導師で三帰依文を唱和、挨拶につづいて、議長に石上理事長、議事録署名人に川田聖定、江川辰三の両師を選んで議事に入った。

**議案第一号** 平成五年度予算編成の基本方針について承認を求める件

石上理事長より上程。斎藤財務部長が詳細を説明。原案通り承認された。

**議案第二号** 保管金の措置について承認を求める件

石上理事長より上程。斎藤財務部長が説明。原案通り承認された。

**議案第三号** 宮崎県仏教連合会の加盟の承認を求める件

石上理事長より上程。野生司社会部長がこれまででの経緯を説明。本会への加盟が承認された。

**議案第四号** 「マヤ堂修復計画協定書」、「ネパール王国ルンビニ・マヤ堂修復計画実施計画」の一部修正について承認を求める件

**議案第五号** マヤ堂修復計画第一期作業及び専門家会議の予算について承認を求める件

石上理事長より一括上程。木内国際文化部長がこれまでの経過を説明。質疑応答の後、承認された。

### 報告事項

①事務総局各部報告

資料に基づいて、各担当部長から報告があった。

## 事務局録事

―九月―

三日 宗教法人実務者研修会出席

四日 日宗連理事会

七日 局内会議

九日 真言宗豊山派管長就任祝賀会出席

十日～十一日 全日本仏教徒会議九州大会

十七日 真言宗豊山派新内局来局

十八日 同和委員会

本願寺派全戦没者追悼法要参列

二十一日 基本法中央集会出席

二十四日 法律相談室

### 哀悼

二十六日 永平寺差別戒名法要参列  
二十八日 総務委員会

塚田 賢照（元全仏評議員）

七月二十七日、七十八歳で遷化

栃木県仏教会副会長

大井 重忠（元全仏評議員）

八月九日、六十八歳で遷化

神奈川県仏教会副会長

藤井 實應（元全仏会長）

九月三日、九十五歳で遷化

浄土門主、総本山知恩院第八十五世門跡

## 寺院用具

浅草通り五鳳会加盟店

株式会社 決田商店

東京都台東区寿2-10-9（地下鉄田原町駅前）

電話 代表 (3841) 4965